

2011（平成 23）年度  
**武蔵大学 FD 活動報告書**

武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント実施委員会編

## 2011 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって

武蔵大学長 清水 敦 (FD 委員長)

大学がその教育の現状を点検し教育の質の向上に取り組むべきこと、また授業を担当する教員が教育の成果を確認し授業の改善を図るべきことについては、改めて指摘する必要はないでしょう。ただし、近年、グローバル化の進展、技術の高度化、社会問題の複雑化などによって社会が大学卒業者に求める知的能力や人間力の水準が高まる一方で、大学のいわゆるユニバーサル化に伴う問題が無視できなくなっており、大学の教育力が改めて問われるようになっていきます。そうしたなかで授業を担当する個々の教員の努力に教育の改善を委ねるだけでなく、授業の内容や方法の改善を図り、教育に係る諸制度の改革を行うための全学的な取り組み、すなわちファカルティ・ディベロップメント (FD) の組織的展開を行うことの重要性は高まっているといえます。

このような社会的背景のもとで、FD の実施は、平成 11 年に努力義務とされ、平成 19 年度から大学院課程において、また平成 20 年度からは学士課程において義務化されましたが、義務化のいかんにかかわらず、各大学は FD 活動に積極的に取り組むべきであることはいうまでもありません。在学する学生に質の高い教育を行うことは、何よりも学生に対する責務であり、また優れた教育を行う大学としての社会的認知をえるために不可欠であるからです。

本学では、以前から、教職員の協力と努力に支えられて学生の授業評価アンケートを中心とする FD 活動を行ってきており、講演会の実施などの活動も実施されてきました。こうした取り組みが本学における教育の内容充実と質の向上に寄与してきたことは明らかであります。そして近年、FD 活動のいっそうの充実のための取組が行われてきました。2010 年度には本学における FD 活動の「基本的方針と課題」を確認するとともに、他大学の活動事例の調査などが行われました。また 2011 年度には、授業評価アンケートについて、その実施方法の検討や集計結果の取り扱い内規の制定を行うなど体制の整備が図られるとともに、調査員による FD 活動の調査・検討なども実施されました。さらに学生も加えたかたちで FD 研修会を行い、学生の意見を FD 活動に取り入れる試みも開始されました。

FD 活動は継続的な取り組みであり、教育力の向上のためには不断の努力が求められています。本報告書の内容をご確認いただき、本学における FD 活動をさらに展開するためにご活用いただくようお願い致します。

## 未完のFD（教育改善）活動

和井田 清司（2011年度FD実施委員長）

暗中模索をした2年間でしたが、実施委員会の世話人としての任期を何とか果たすことができました。FDに関わる皆様のご支援のたまものと感謝申し上げます。

2年前の4月、担当を仰せつかりましたが、FD活動とはなにか、武蔵大学の今までの蓄積に立脚してどのように今後展開していったらよいのか、皆目わかりませんでした。そこで、先進的な実践を展開している全国の大学を訪問し、さまざまな示唆を頂戴しました。そうした外部情報を参照しつつ、2010年度の重点課題として武蔵大学におけるFD活動の基本方針の策定に取り組みました。昨年度のFD実施報告書の冒頭に掲載した「武蔵大学におけるFD活動の基本的方針と課題」（2011.4大学協議会）がそれにあたります。

その基本的方針の文書のなかで、2011年度の課題が次のように指摘されています。

### (1) 授業アンケートの改善策

授業改善への有効活用という視点から、授業アンケートの意義・内容・方法について検討・改善を図る。具体的には、以下の諸点について検討する。

- ① アンケート結果の閲覧活用規程の作成
- ② 実施科目・実施方法の改善(実施科目の精選、通年科目の位置づけ等)
- ③ 授業経営改善に向けた分析作業の高度化に引き続き取り組む
- ④ アンケート結果へのリプライの試行
- ⑤ カンファレンスの試行(仮称「FDフォーラム」)

### (2) FD研修会の充実策

一般的包括的な講演会という形式をこえ、主体的・実践的な研修会の実施に向かう。具体的には、以下の企画を案として検討する。

- ① 春期研修会：FD研修会(2011.3実施予定の企画を学年早期に実施する)
- ② 秋期研修会：全体講演「大学教育改革のポイント」(仮称)
- ③ 冬期研修会：実践交流会(各学部・学科・課程等の実践を交流する)

別途、大学院FD研修会も可能なかたちで企画する。以上の全体企画の他に、可能であれば学部毎に授業改善の懇談会や研修会を企画する。

### (3) 学生参加の企画と試行

全国における学生FDの成果を視野に入れつつ、当面、武蔵大学学生組織(学友会)との懇談の場を設ける。学生代表の同意を得つつ、学生参加の「FDフォーラム」(仮称)を試行する。

### (4) FD推進組織・体制の整備

担当事務の位置づけを含め、組織体制の検討・整備をすすめる。その際、FD関係委員会の名称・体制についての検討も合わせてすすめる。

個別課題については取り組めなかった部分もありますが、大体はこの通りに進められたように感じております。少し具体的に今年度の取り組みの特徴点を紹介します。

### ①大学院FDの始動

大学院FD担当の八木委員・松島委員のご尽力により、2回にわたり院生との懇談会が実施されました。次年度以降、FD活動の公式行事として発展させていくことが期待できます。

### ②授業評価アンケートの授業改善への活用

河合委員を座長としたワーキング・グループの答申を受けて、「武蔵大学『学生による授業評価アンケート』取扱内規」が制定されました(2011. 6. 大学協議会承認、同月大学院委員会承認)。また、アンケート結果を授業改善につなげる第一弾として、アンケートに記述された施設整備面での改善要望について、関係部署との協議を行いました。

### ③FDフォーラムの実施

FD講演会は例年通り実施致しましたが(池田輝政名城大学教授)、今年度は年度末に「FDフォーラム」として学生参加のカンファレンスを実施しました。中橋委員から授業評価アンケートの分析概要を紹介いただいた後、3人の学生(各学部各学年から選出)から率直な意見を述べてもらいました。フロアーを交えた議論も活発に展開されました。FD活動への学生参加の試みとして意味のある企画となりました。

### ④FD調査員の委託と報告書

FD業務の基盤と方針を固めるための調査業務を委託するためFD調査員を依頼しました。調査員の新宅広二さんは、短い期間に精力的に調査業務を推進し、5大学(甲南大・学習院大・成蹊大・成城大)のすべてとその他先進大学に訪問調査を実施し、貴重な情報を収集・分析し、報告書を作成していただきました。これからのFD活動にとって重要な文書となると思われます。

FD委員会のご指導やFD実施委員のご尽力により、以上のような諸活動を実施してきました。

大学教育への管理や質保証を求める要請は、日々強まりつつあります。そのような中、大学教育の質的改善をめざす内部努力なしに大学の存続が難しい状況になっていくと思います。例えば、文部科学省は、各大学における設置認可時の設置計画がどのように履行されているか、調査しています。各大学への書面・面接・実地調査による結果をまとめた文書によれば、FD活動に関して、こうあります。

FDについては、様々な取組が行われているところであるが、特に、その一環として実施されている学生による授業評価については、評価結果が学生にフィードバックされておらず、授業評価がどのように活用され、どのように改善されているのか学生が確認できないといった事例も見られた。このため、各大学においては、評価結果について、学生等に対する公表等を通じて教員の教育改善への継続的な取組に活かしていくことが求められる。

(文部科学省「設置計画履行状況等調査の結果等について(2011年度)」)

大学をめぐる外部環境が急速に変容しつつあり、学生・院生のニーズや関心も多様化しているなか、大学の教育改善活動の方略は、より繊細さと大胆さが求められてきているように思います。制度の枠組みを活用し(GPなど)、外部情報に目配りをし(先進校の動向など)、状況分析をおこたらず(学生の声・学外からの期待など)、今までの取り組みを進(深)化させることが求められてくるように思います。そして、FD活動に完成形はなく、未完のまま、状況に合わせて進化していくことが大切になるのではないのでしょうか。武蔵大学のFD活動の進化に向けて、本冊子を活用していただければ幸いです。